

2023 11

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

酒本郁也 茂木孝太

荒牧建二 須藤滋子

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

9月号作品批評／宮本史一(心の花)

ブリューゲルの花束／二方久文

「邪馬台国」はなかった／多羅空岳

ごんちゃんのこと／鈴木鳳介

現代文 知識ノート 【1】

NILE CAMPUS

293

伯梅閑話 —— 六代目神田伯山と話す ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

浅草東洋館で六代目神田伯山先生を聞く機会があった。二〇二三年六月二十五日（日）、東京演芸協会六十周年のゲストだ。一人五分で大勢が出る中、ゲストは十分。伯山は十一分。演題は「三方一両損」であった。今大人気の伯山だ。私が行くまでもなく満席にできる方、できれば、私以外の方に伯山を聞いてもらって講談ファンになってほしいのだ。一期一会伯山を生で聞くのは、これっきりのつもりだった。ナイル三冊と手紙を早野凡平の弟子、はやのみこみさんから渡してもらった。伯龍の芸を認めている方だから、伯龍のことを書いてあるものを渡したのだ。すると、数日後、伯山本人から、電話があった。留守番電話を聞いて、折り返しなどして、あちらの空き時間に電話していただいた。直接話すのはこれっきりと思うから色々言った。が、それはそれ。問題は、伯のつく名前をどうするかだ。

「伯の字の名は止め名にする」と言って逝った伯龍だが、八代目一龍齋貞山の娘、貞鏡さんに伯龍を継いでほしかったのだ。貞山の娘で貞山の孫なのだ。それはないだろうと思っただが、伯龍のすること、特に講談に関しては、口を出さないことにしていたので黙っていた。継ぐ人がいないから、格好よく「止め名にする」と言っただけのことだ。弟子がいらないから、「弟子は取らない。下手な講談を聞くと下手になるから」と言っていたのと同じだ。伯の字畑の五代目伯龍も五代目伯山も弟子を取りたがらない人だったから、今や、講談師なのは六代目伯山だけなのだ。ふさわしい方があれば、伯の字のつく名を継いでほしいと思う。六代目伯龍は、師匠の名前を継ぐまでに時間が経ち過ぎていたので、私が夫の名を伯龍だと言うと「伯山でなくて？」と言われることが多々あった。そのことを、六代目伯山先生にマネージャーから伝えてもらおうよう頼んだ。